

# 有料老人ホーム等における 感染対策研修会



SUBARU健康保険組合太田記念病院

医療安全管理部 感染対策課

感染管理認定看護師

土屋 映里佳

# 高齢者施設の特徴

- 医療施設ではないが、感染症に対する抵抗力が弱くなっている高齢者が、集団で生活している場である
- 在宅よりも感染症が拡大しやすい状況にある



# 感染症に対する対策の3本柱

- ① 感染源の排除
- ② 感染経路の遮断
- ③ ヒトの抵抗力の向上

標準予防策の徹底が重要になる

# 標準予防策とは？

全ての患者に対して、

標準的に行う感染予防対策である

目的…血液やその他の体液への接触を最小限にすること  
血液、汗を除く体液、粘液、損傷した皮膚を感染の可能性  
があるものとして防護すること

手洗いと、個人防護具装着の5つの対策がある



# 感染予防のターゲット

血液



鼻汁



痰



損傷した皮膚



嘔吐物



排泄物

粘膜、母乳、気道内分泌液、精液、腔分泌液、脳脊髄液、胸水、腹水、羊水、滑液、心膜液

標準予防策が重要

# 何をどうすればいいの？

- ① とにかく手指衛生
- ② 適切な個人防護具
- ③ 定期的な清掃



# 手指衛生の種類

- ①流水と石鹸による手洗い
- ②擦式アルコール製剤の使用

目に見える汚染には



20-30秒

汚染が見えない場合は



10-20秒



# 洗い残しをしやすい部位



手背

 頻度が高い



手掌

 頻度がやや高い

「病院感染防止マニュアル」監修 日本環境感染学会 (p.24) より一部改変



手指衛生前

手指衛生後

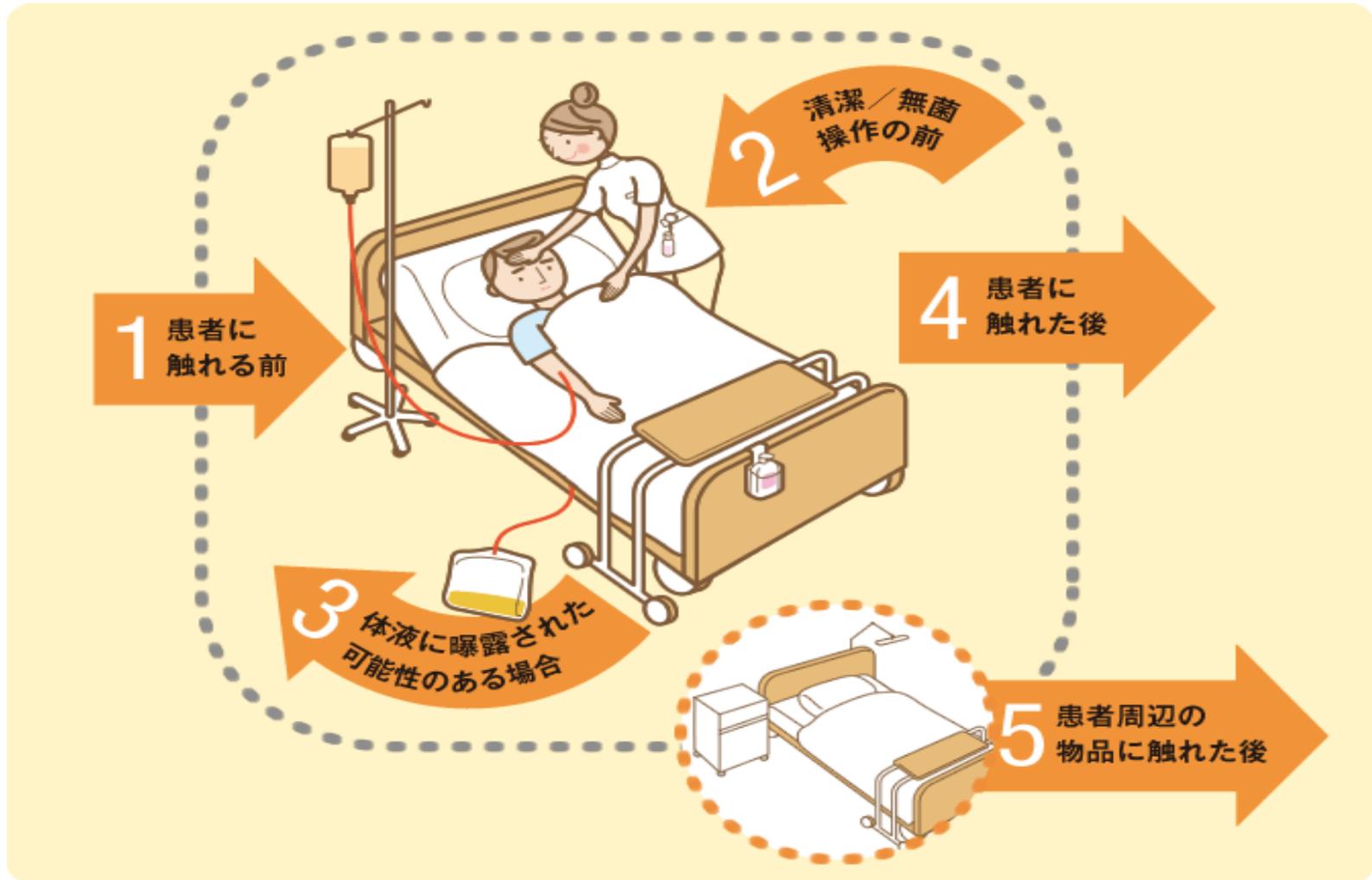
パームスタンプ法による手指の微生物汚染半定量的培養評価。

# 入所者の手指の清潔

入所者間での感染拡大予防のために、  
食事の前後、排泄行為の後を中心に、  
出来る限り、液体石鹸を流水による  
日常的な手洗い習慣が継続できるように  
支援する



# 手洗いの5つのタイミング



# 個人防護具（PPE）

- 医療従事者を感染から守るための道具
- 患者に感染を広げないための道具

## 個人防護具の種類

- 手袋
- 袖付ガウン・ビニールエプロン
- マスク
- 目の防御（ゴーグル・フェイスシールド）

血液、体液、分泌物、排泄物に  
直接触れないよう、選択して使用する

# 個人防護具の着脱方法

着ける順番

エプロン  
ガウン

マスク

ゴーグル  
フェイスシールド

手袋

外す順番

手袋

ゴーグル  
フェイスシールド

エプロン  
ガウン

マスク

個人防護具の装着前、外した後に手指衛生を実施する  
(手指が汚染した場合は、いつでも必要に応じて手指衛生を実施する)

# 経路別予防策



# 経路別予防策とは

微生物が口や鼻、皮膚、気道などから出て、  
何らかの方法で感染する経路のこと

- ① 接触感染
- ② 飛沫感染
- ③ 空気感染

空気感染 5 $\mu$ m以下の粒子が空気中を浮遊し伝播

咳やくしゃみで、5 $\mu$ m以上の飛沫粒子に付着した病原体で伝播



# 感染症別の感染対策

|   |  |   |
|---|--|---|
| <p><b>接触予防策</b></p> <p>MRSA<br/>ノロウイルス<br/>水痘など</p> <p>新型コロナウイルス感染症</p> <p>手袋<br/>エプロン<br/>手指衛生</p> | <p><b>飛沫予防策</b></p> <p>インフルエンザ、<br/>マイコプラズマ肺炎<br/>風疹など</p> <p>マスク<br/>手指衛生</p> | <p><b>空気予防策</b></p> <p>結核<br/>麻疹など</p> <p>N95マスク<br/>手指衛生</p> |
|---|--|---|

標準予防策

標準予防策の10項目

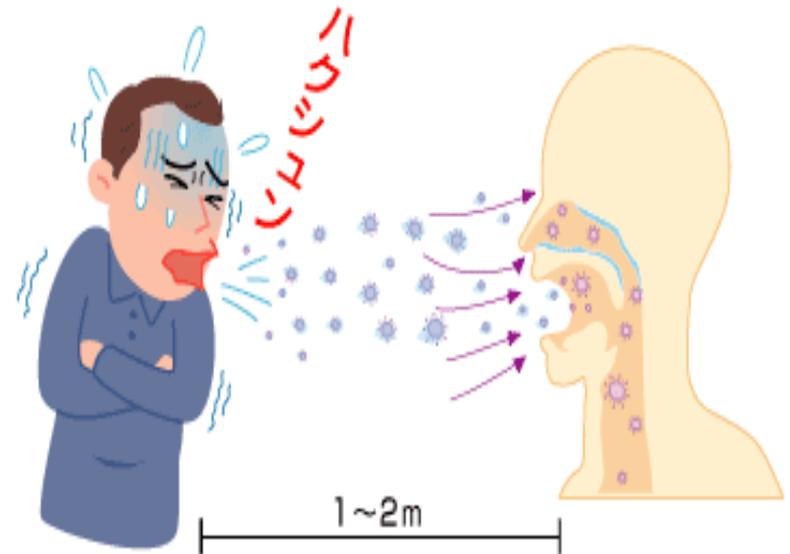
# 新型コロナウイルス感染症



# 新型コロナウイルスの感染経路①

飛沫感染：飛び散った飛沫による感染

感染者の咳やくしゃみの中に含まれるウイルスが目・口・鼻・のどの粘膜につくことで感染



# 新型コロナウイルスの感染経路②

接触感染：分泌物への接触からの感染

ドアノブや手すりなどを介してウイルスのついた手で目・口・鼻に触れる

ことで感染



# ご施設でクラスターを 起こさないために

- 日頃から利用者・職員の体調チェック
- 外出時、人と接触する時はマスク装着
- 発熱、咳を見逃さない
- こまめな手指衛生と環境清掃
- 施設内に持ち込まないことを徹底する